

令和6年度第1回幕別町創生総合戦略審議会議事録

1 開催日時

令和6年6月4日（火）18：30～20：05

2 開催場所

幕別町役場3階 会議室3－A B

3 出席委員（15名）

笹井会長、坂本委員、勝井委員、森委員、宮田委員、高道委員、浦島委員、久保委員、仙北谷委員、藤井委員、齊藤委員、堀委員、堀川委員、金野委員、森田委員

※ 原田委員、佐々木委員、竹山委員、山本委員、土井委員は欠席

4 審議

(1) 令和5年度幕別町の人口動態について

(2) 第2期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和6年度事業について

5 事務局出席者

幕別町企画総務部長	山端 広和
企画総務部政策推進課長	宇野 和哉
“ 政策推進課副主幹	浜頭 正弘
“ “	児玉 隆良
“ 政策推進課主査	柴谷 隆次

6 傍聴者

2人

7 議事録

(企画総務部長)

お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから、令和6年度第1回幕別町創生総合戦略審議会を開催いたします。

会議に先立ちまして、委員を選出いただいております団体の組織役員等の異動などにより、新たに委嘱いたしました2名の方をご紹介しますので、本日配布いたしました、資料3 幕別町創生総合戦略審議会委員名簿をご覧ください。

あわせて、その場で自己紹介をお願いしたいと思います。はじめに名簿の11番目、幕別町校長会会長の久保睦則（くぼ むつのり）様です。

(久保委員 挨拶)

ありがとうございます。

2人目は名簿の14番目、十勝総合振興局地域創生部長の土井良起（どい よしかず）様ですが、本日欠席となっております。

次に、事務局職員を紹介いたします。

(事務局職員からの自己紹介)

(企画総務部長)

なお、本日の出欠状況ですが、委員20名のうち、原田委員、佐々木委員、山本委員、竹山委員、土井委員の5名の方から欠席の連絡を受けておりますのでご報告いたします。

それでは、開催に当たりまして、笹井会長から挨拶を申し上げます。

(笹井会長)

皆さんこんばんは、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございました。

早いもので前回の会議が、令和5年10月に開催されたと記憶しており、それからもう既に半年以上、時間が経つのは早いなと感じます。

先日、新聞の記事に消滅の可能性がある自治体というものが発表され、十勝管内では6町村の名前が挙がってまして、これについては賛否両論あると思いますし、何を基にと思われる方もいらっしゃると思いますけども、20代から30代の女性の方が半減して、最終的には、その自治体が消滅するだろうという、ちょっと衝撃的な記事だったというふうに記憶してます。

この記事を見た後に、私の所属してる商工会の十勝管内の会長が集まる会議がありましたけ

ども、あなたの町が載ってましたね、私の町は載ってなくて良かったねとか、話題になりました。

いずれにしても、今日の会議でもそういう人口動態についての話も出てくると思うんですけども、町村のまちづくりについて、今一度、真剣に話し合っていないと、今回幕別の名前は出てなかったですけども、いずれはというような危機感を持って、色々な意見で、後世に繋げるようなことをしていけないといけないのかなとつくづく思った次第でありました。

本日、一区切りの最後の会議だそうです。報告事項とかもあるみたいですので、皆様の忌憚のないご意見をいただきまして、良い会議になりますよう、お願いいたしまして、ご挨拶と代えさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします

（企画総務部長）

ありがとうございました。それでは、ここから先の議事進行は笹井会長にお願いいたします。

（笹井会長）

それでは議事に入ります。議案(1)令和5年度幕別町の人口動態について、事務局から説明をお願いします。

（政策推進課副主幹）

説明させていただきます浜頭です。よろしくお願いいたします。

説明の前に、配布資料を確認させていただきます。事前送付をしております、次第、資料1、資料2、資料3、資料4、資料5になります。資料がお手元にはない方はいらっしゃいますでしょうか。

令和5年度の幕別町の人口動態について説明いたします。資料1の令和5年度の幕別町の人口動態の概要をご覧ください。1ページ「1 直近10年間の年度末人口」になります。こちらは、平成26年度から令和5年度までの10年間の人口動態をまとめたものになります。

表の左から順に、年度、地区ごとの人口と総計、人口のうち外国人の人数、前年比、出生数と死亡数、自然増減、転入者数と転出者数、社会増減、自然増減と社会増減の計、高齢化率、合計特殊出生率となっております。

令和5年度のR5の欄をご覧ください。地区ごとの人口ですが、幕別地区は5,173人、札内地区が18,883人、忠類地区が1,362人となっており、総計25,418人と、令和4年度と比較すると360

人減、平成26年度と比較すると2,178人減と、人口減が続いている状況です。

続いて E 欄 F 欄 G 欄の出生と死亡の自然増減に関してですが、令和5年度の出生数は119人に対して、死亡数は364人だったことから、自然増減は245人の減となっており、出生数は、過去10年間では、1番少なく、令和4年度との比較は11人の減、過去10年間すべて、死亡数が、出生数を上回る状況となっております。

続いて H 欄 I 欄 J 欄の転入と転出の社会増減に関してですが、令和5年度の転入851人に対して、転出966人だったことから、115人の減となっております。転入の851人は過去10年間では最も少なく、転出は平成29年度から令和2年度まで、減少傾向にありましたが、令和3年度から、また増加し始めたことから、社会増減の減少は伸び続け、過去10年間で、2番目に多い115人の減少となっています。

K 欄の、自然増減と、社会増減の合計は、過去10年間で、1番目に多い360人減少となっております。

人口のうち65歳以上の方が占める割合となります「高齢化率」は、34.7%で前年度から0.5ポイント増加となり、平成26年度と比較すると6.1ポイント増加しております。

一人の女性が一生の間に出産する子供の数として、15歳から49歳までの女性の年齢別に出生率を合計した人口の統計の指標の「合計特殊出生率」は1.15と表にあるとおり過去の示したものではありません。一番少ないものとなっております。

次に、「2 幕別町人口ビジョンから推計した2025推計値との比較」になります。

人口ビジョンとは、幕別町の人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向、人口の将来展望を提示するもので、平成28年1月に幕別町人口ビジョンを策定し、令和2年3月に改訂しております。

ここでは、幕別町人口ビジョンにおける推計値と、令和5年度末の人口を年齢別に比較したのになります。A 欄の令和5年度の推計値26,132人に対して、B 欄の令和6年3月末人口25,418人と714人少なく、推計値を下回っている状況となっております。

次に裏面の2ページ目をご覧ください。「3 高齢化率」を説明します。表のC 欄になりますが、令和5年度末時点の幕別町全体の高齢化率は、34.7%、地区別では幕別市街地が46.3%と最も高く、札内市街地が30.6%と最も低い状況です。

次に「4 自然動態」になります。令和5年度中の出生者数の合計は119名、死亡者数の合計は364人となっております。245人の自然減となっております。

最後に「5 社会動態」になります。(1)の転入元・転出先の比較です。転入元と転出先それぞれ、帯広市の1市、音更町と芽室町の2町、そのほかの十勝管内町村、札幌市、そのほかの

十勝管外市町村、東京都、東京を除く道外、国外を示しています。

傾向としましては、転入者851人に対して転出者が966人と上回っていますが、転入者のうち、485人が十勝管内市町村から転入している一方、十勝管内市町村へ転出した方は444人と、転入者が上回っている状況です。

しかし、十勝管外からの転入者が366人、十勝管外への転出者522名と、こちらは転出者が大きく上回っている状況です。

次の(2)の年齢別転入・転出者数の比較です。こちらの表ですが、年齢別の比較の傾向としまして例年同様となっているところですが、15歳から19歳までの欄と20歳から24歳までの欄をご覧ください。

転入者より転出者の数が大きく上回り、15歳から19歳までの差引き86人の減、20歳から24歳までの差引きが69人の減となっており、こちらは進学や就職に伴う転出者の増と推察されます。

太線枠で囲んでおります数字についてですが、転入者から転出者を差し引いた数において、0歳から14歳までのものと、25歳から44歳までのものを子育て世帯の年齢として考えまして、その合計が34人の増となっております。

こちらの年齢層が増となっているのは、これまで取り組んできました定住対策及び子育て施策の効果によるところが大きいことと推察されます。

なお、3ページには資料編として、直近3年間の自然増減と社会増減の表を掲載しておりますのでご参考ください。

説明は以上でございます。

(笹井会長)

事務局から、令和5年度の幕別町人口動態について説明がありましたが、皆様の方から何かご質問とかご意見とかございましたらお願いします。

(仙北谷委員)

仙北谷と申します。よろしくお願いします。

前回、前々回と不参加でしたので、そこで既に議論されていたら、大変申し訳ないですけども、人口動態について一点お聞きしたいことがありまして、資料1で平成26年から令和5年までの状況を示していただいておりますが、令和2年、3年がその前後と比べてちょっと特異な動きをしているのかなと思いますけども、これについてはコロナの影響っていうのはすごくあったのではと思うんですよね。

例えば、令和元年から令和2年では転入、転出どちらも減ってるんですよ。また、令和3年になりますと、324人から370人に死亡が増えるんですよ。さらに、令和4年には409人と増えている。

コロナのような社会不安になりますと、人の動きや引っ越しがすごく減る。また、出生が減ったり、ひょっとしたらコロナの影響で増えたりというようなことが起きたのか。

幕別町でどの程度だったのかっていうのは、私はフォローできていないのですが、今述べたような数字についてコロナの影響があったかもしれないなと少し思ったのですが、役場もしくは会議の中ではどういうふうに理解しているかお聞かせ願えればと思います。

（政策推進課長）

まず1点目のコロナの影響ということですが、確かにこの時期には社会活動っていいですか、移動っていうものが各自の自粛とかで制限されたことはあるかなと思っています。

また、死亡数とコロナとの因果関係ですけども、これは実際に死亡された方で、コロナが元だったっていう方は死亡届とかでは分かりますが、実際には公表されてませんので、基本的にはコロナが影響でこれだけの死亡数が増えたということはなかなか言いにくいかなと思っています。

出生数の減少に関しましては、外出しなくなったことと出生数が減ったことの因果関係について、何かははっきりと申し上げるようなことはないと思いますが、出生数の減少についてだけで言えば、最近の成婚率の低さや晩婚化、あるいは、もともとの出生率の低下が影響しているかと考えられます。

令和5年の出生数は119人となっておりますが、令和6年の推計値も100人少々になってしまうのではというくらいに減ってきてるので、そこに対しての対策は必要になるかと思いますが、直接的にコロナの影響があったとは町としては考えていないところでございます。

（笹井会長）

よろしいでしょうか。他にございませんでしょうか。

（堀川委員）

人口動態のご説明ありがとうございました。

資料の中で令和5年度の合計特殊出生率がいよいよ1.2を下回るということや、課長の方から成婚率の話出ましたが、ここ数年の婚姻数は、やっぱり減少傾向にあるのでしょうか。

帯広市では確かパートナーシップ制度があったと記憶していますが、多様性の時代になってきた状況の中で、経済的な環境も含めて、合計特殊出生率1.15という数字をどう思っているかを伺いたいと思います。

（政策推進課長）

婚姻数が実際に何組いたのかという数をはっきりとはつかんでいないですが、堀川委員がおっしゃられたパートナーシップ制度や男女共同参画については、これから進んでいくような段階です。

最近では、結婚してお子さんが欲しいと望まれても、なかなか子供ができずに不妊治療に取り組んでいる方も非常にたくさんいらっしゃいます。

町としても、特定不妊治療と一般不妊治療への助成とかはしているところではあります。経済的な理由で子供をもてない方ももちろんいるかとは思いますが、不妊が増えたことも要因ではないかと押さえています。

（笹井会長）

よろしいでしょうか。他にございませんでしょうか。

いらっしゃらないようなので、また最後の方で皆様にご意見をいただきますので、先に進ませていただきます。

続きまして、議案(2) 第2期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和6年度事業について、事務局から説明をお願いします。

（政策推進課副主幹）

「第2期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略令和6年度事業」について説明いたします。

資料2をご覧ください。

町の総合戦略で掲げる「4つの基本目標」を推進するに当たり、今年度の令和6年度に取り組む具体的な施策及び事業を基本目標ごとに掲載したものになります。

基本目標1「産業の振興と雇用の場をつくる」が4つの具体的施策で構成し、15事業を記載しています。

基本目標2「十勝・幕別への人の流れをつくる」が4つの具体的施策で構成し、14事業を記載しています。

基本目標3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」が5つの具体的施策で構成し、28の事

業を記載しています。

基本目標4「安全・安心で快適な暮らしができるまちをつくる」が8つの具体的施策で構成し、31の事業を記載しており、合計88の事業となっております。

なお、各事業の詳細説明は、時間の都合上割愛させていただき、主に新規事業と拡充事業を中心に説明いたします。

資料を一枚めくりまして、1ページ目をご覧ください。

基本目標1、上から4つ目の事業になります。拡充事業になりますが「鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業補助金」です。

これは有害鳥獣捕獲に係る補助としまして、従来より対象のエゾシカやキツネなどの有害鳥獣にタヌキとウサギを追加し、それぞれ1匹1羽につき1,000円を補助するものです。

次に、新規事業になりますが「優良和牛生産基盤強化事業」です。

優良な系統牛を確保することで経済性の高い和牛の生産を図るため、体格得点81.5点以上の繁殖雌（めす）牛の保留に対し、1頭当たり20,000円の補助金を交付するものです。

ページ右側の上から5つ目の事業、拡充事業になりますが「商店街活性化店舗開店等支援事業」です。

こちらは、空き家店舗の改修費用等を補助するもので、改修に係る補助限度額を100万円から300万円に拡充したものです。

次に、2ページ目をご覧ください。基本目標2になりますが、上から4つ目の事業、新規事業になります。「トカプチ400走行環境整備事業」です。

ナショナルサイクルルート トカプチ400において、自転車及安全・安心に通行できる空間を整備するものです。主に矢羽根と、案内標識の整備となっております。

ページの右側の上から2つ目の事業になります。拡充事業になります。「小学生国内交流事業」です。

開成町・中土佐町への派遣日程を5泊6日に拡充したものです。

次に一番下の事業になります。拡充事業になります。「地域おこし協力隊活動推進事業」です。

現在新たに「市街地のにぎわいづくり」の隊員を募集しております。なお、「忠類地域」隊員もあわせて現在募集中であります。

次に3ページ目をご覧ください。基本目標3になりますが、ページ左側の下から2つ目の事業になります。拡充事業になります。「不妊・不育症対策事業」です。

令和5年度（令和5年10月）から実施していました「先進不妊治療」に対しての助成するもの

を、追加事業として拡充しております。助成内容は1回3万5千円を上限に助成をするものです。

次に右側の一番下の事業になります。拡充事業になります、「発達支援センターの機能充実」です。こちらは令和6年度から新たに忠類分室を開設し、忠類・駒畠地区の療育の相談や対策・連携等が強化されております。

次に6ページ目をご覧ください。基本目標4になりますが、上から2つ目の事業です。新規になります、「福祉除雪事業」です。高齢や障がい等の理由で自ら除雪を行うことが困難な、生活に困窮する世帯を対象に、外出時に支援となる玄関から道路までの除雪を行うものです。

7ページ目をご覧ください。新たに具体的施策を追加し、「行政事務の効率化と住民サービスの向上」としまして、デジタル技術やデータを活用して、住民の利便性を向上させるとともに、デジタル技術やAI等の活用により業務効率化を図り、人的支援を行政サービスのさらなる向上に繋げていくものです。

事業は次の5つを新規事業として掲載しております。

1つ目は「窓口DX推進事業」です。住民票等コンビニ交付システムの運用、書かない窓口サービスの提供、窓口キャッシュレス決済POSレジを導入するものです。

2つ目の事業は「公式LINE構築事業」です。無料通信アプリの「LINE」を用いて、年齢や居住地など利用者の属性やニーズに応じた、子育てや防災などの情報提供、GPSによる位置情報を活用した道路の損傷や防犯灯の故障等の通報、ごみの分別方法の案内、住民票等の郵送請求ができるシステムを構築するものです。

3つ目の事業は「行政手続きオンライン化推進事業」です。行政手続きのオンライン化、行政手続きデータのシステム登録自動化を構築するものです。

オンライン申請システムを導入し、行政手続きのオンライン化と、人工知能による光学文字認識、ロボットによる業務プロセスの自動化の活用で行政手続きデータのシステム登録自動化を構築するものです。

4つ目の事業は「除雪管理システム管理事業」です。こちらは、除雪車両等に設置したGPS端末から位置情報を取得し、除雪の進捗状況、スクールバスの運行状況の一般公開、除雪情報の一元管理などを行うためのシステムを整備するものです。

5つ目の事業は「公開型地理情報システム整備事業」です。最新のデジタル測量技術により道路台帳を電子化するとともに、窓口閲覧や電話による問い合わせなど住民負担を軽減するため、道路台帳や都市計画図、防災情報など住民が必要とする地図情報をオープンデータとして公開するための地理情報システムを整備するものです。

資料２の説明は以上でございます。

（笹井会長）

ありがとうございました。

それでは質問を受け付けますが、項目が多いため、基本目標１から順番に進めたいと思います。まず、基本目標１「産業の振興と雇用の場をつくる」について何かご質問等ございますか。

（金野委員）

拡充された空き店舗対策の事業についてお聞きしたいのですが、令和５年度には何件ぐらいあったか件数が分かれば、教えてください。

（政策推進課副主幹）

令和５年度は３件ありました。

（金野委員）

３件については、現在も継続しているのでしょうか。

（政策推進課副主幹）

補助金を交付しているので、完了していると思います。

（金野委員）

令和６年度の交付見込みや件数を教えてください。

（政策推進課副主幹）

現在１件の申請があると思われますが、詳細についてはつかめていません。

（金野委員）

この事業については、ぜひPRを頑張っていただきたい。店舗の空き家が増えており、いわゆるシャッター通りになっているのは深刻な問題ですからね。１件でも実績を増やせるようにお願いしたいと思います。

（政策推進課副主幹）

担当課の商工観光課と連携していきたいと思います。

（笹井会長）

他にございますでしょうか。

（堀川委員）

資料の中に後継者やＵＩターン者確保・育成というフレーズが出てましたが、高校卒業と同時に道央圏や首都圏に出て行ってしまう方が多く、幕別町に戻ってきてもらおうと思っても首都圏に比べて給与条件が低いため、奨学金の負担が大きいという問題があります。

地元の中小企業で首都圏の給与レベルを出せるかというとなかなか難しく、奨学金の負担について緩和しながら、ＵターンあるいはＩ、Ｊターンを促進できないかなと思うところであります。今後、このようなことについて考えていただければと思います。

先日、私が加入している建築工業組合で高等技術専門学院からのインターンシップについて説明がありましたが、昨今の人手不足の状況でインターンシップを受けたいという企業が非常に多いという話がありました。

ただ、企業側は有効に活用したくても、どうしても費用負担が発生してしまうので、そこに対してコストサポートができないのかなと思います。

今後、企業における人手不足を少しでも解消するために、検討課題としていただければと思いますが、いかがでしょうか。

（政策推進課長）

町としても、企業の後継者、人材不足というのは顕著だと思っています。

例えば、インターンシップの話も含めて、地域おこし協力隊を利用するなど、少しずつ検討を進めているところではありますが、予算や受け入れる企業の持ち出しといったものも関わってくると思います。

実際に介護や医療の現場では奨学金を出して、そのまま勤めていただくというような制度もかなり充実しているのかなと思いますが、建設業界や商店商工にはまだまだ浸透していないと思いますので、色々な情報をつかまえながら検討していきたいと思います。

また、若年者の緊急雇用対策についても、どのような制度が後継者対策に有効なのかについて研究を進めていきたいと考えているところです。

（笹井会長）

他にございませんか。

次に、目標２の「十勝・幕別への人への流れをつくる」という部分につきましていかがでしょうか。

（堀川委員）

スポーツ合宿体験誘致の推進という部分で、合宿誘致に関するワンストップ体制の構築という言葉がありますが、具体的にはどういった体制のことか、どの部署でこれを扱うかも含めて教えていただければと思います。あるいは、今後の方向性について確認したいのですが、いかがでしょうか。

次に、移住定住対策の推進の中で、空き地・空き家バンクの記載がありまして、開設してから６年くらいかと思いますが、おそらく伸び悩んでいるのではと推察しています。

先程の人口動態の話も関連しますが、ここ数年良質な土地、宅地の供給不足があり、特に札内地区で足りないという状況があります。

新しい宅地造成をするには、多大な労力やコストが掛かることは重々理解していますが、現実的にできるかできないかを含めてお聞きしたいと思います。

ちなみに、空き家というのは水道メーターが１年以上動いていないところかと思いますが、幕別町内の空き家の数は大体どのくらいありますか。

（政策推進課長）

まず、１点目のスポーツ合宿の誘致に関するワンストップですけれども、現在、政策推進課や生涯学習課で担当しているのですが、スポーツ合宿誘致委員会とのやり取りも含めて、生涯学習課においてワンストップでやっていくという考えです。ただ、政策推進課も関わっているので、引き続き情報の共有は行っています。

２点目の空き地空き家バンクについてですが、堀川委員が言われるように開設から年数が経っていますが、登録の件数がなかなか増えていないので、活発に動いているとは言えない状況ではあります。

ニーズに応えるこちらからの情報提供というのが今できてない状況と想着ていますので、こういった方策があるのかなといったことは、検討していきたいなと想着ています。

また、空き家の数については、１０年くらい前に水道の閉栓データを利用して、件数を調査していましたけれども、それから年数が経過していますので、これからもう一度調査をして空き家の実態をつかむ予定ですので、数字が出てきたら報告させていただきます。

先程、お伝えした空き地空き家バンクの取り組みについて、令和6年度の取り組み予定を参考までにお伝えしますと、固定資産税の納税通知書に事業パンフレットを同封して事業周知を図るということです。

それから、北海道宅地建物取引協会帯広支部の会員向けに事業パンフレットを配布して、登録宅建事業者の増加と制度の周知を図るということです。

これらの実効性がどうかという話になると難しいかもしれませんが、一応予定しているということでお伝えしました。

（堀川委員）

スポーツ合宿の誘致の担当に関しては、教育委員会の方かと思っていましたが、いつまでも教育委員会で持つべきものではないのではと思います。持つとしても、なるべく民間に業務を投げて行って、色々な提案や形をとれるような方向に変えて行ってはどうか。

どのような事業に当てはまるかという難しいですが、交流人口を増やすなどして、幕別町の魅力を少しでも伝えられるようお願いしたいので、再度お尋ねします。

先程、新しい宅地造成についてお答えいただけなかったですけども、宅地造成あるいは用途地域の色付けに関して、考えだけでも前向きに持っていただけないかと思います。

これはもう幕別町だけでできないのは重々分かっておりますけど、議論の俎上に上げていただきたいと思いますし、そうすることで幕別町に生産年齢人口の方々を呼び込む呼び水になると思いますので、検討いただきたいなというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

（企画総務部長）

私も合宿誘致に関わりがあって、堀川委員とも一緒にやっている中で、一番の課題はやはりどう自立していくかだと思います。受け皿になるようなことができないかというのは、生涯学習課やスポーツ合宿誘致実行委員会で協議を進めた上で、何か良い方策がないか検討していかなければいけないと思っています。

2点目の空き家についてですが、以前にもお話したかもしれませんが、1市3町いわゆる市街地においては都市計画区域内での枠組み、その中で宅地造成をどの程度の面積にするか、計画を組んでおります。

計画の中で、基本となるのが人口ですが、この人口が伸びる傾向にあれば、市街化区域を拡大していくという考え方になります。ただ、現状は人口動態の説明の時に申し上げたようにどこの町も人口が減少している、その中で宅地造成を新たに拓げるのは難しいかと思いますが、

そういったご意見があったということにつきましては、担当課に申し上げておきます。

（堀川委員）

今のお話は分かりました。

ちょっと差し出がましい話ですが、忠類地域において、人口の減少の仕方が大きいと感じています。過去に、私も忠類の定住、移住対策にも携わったこともありますが、忠類には目的をもって住まれている方が多い。しかし、その方々に住んでもらえるような住居が少ないという問題があります。

今、隣の大樹町にスポットが当たっている中で、そこから人を引っ張ってこれないかという思いもあり、受け皿となる住居が少ないことでそのチャンスを逃すのはもったいないと思います。

例えば、古い村営住宅や旧教員住宅を取り壊し、土地の払い下げをするなど、検討することはできないでしょうか。

（企画総務部長）

全庁的な部分ではありますが、町有地の中でも未利用地、あるいは施設がありつつも利用されていない所があります。そういった所の利活用や土地の売却についても、話として出ているので、総合的な判断の中で、有効活用に向けて検討していければと思います。

（笹井会長）

他にございませんか。

（森委員）

今、忠類の話題を提供いただいて、私は住民会議という諮問機関の委員長を務めていますが、毎期ごとに、公営住宅や宅地造成の話が出ていたり、毎年のように話が上がっている中で進まない現状を考えると、おそらく検討の余地は無いのかなと受け止めています。

それとは別に、スポーツ合宿の部分について、私は中学生のクラブチームを経営してるので、オリンピックという言葉に反応してしまうのですが、町はオリンピックを忠類のナウマン象と同じ捉え方をしているのではないかと思います。

オリンピックの町という名前で色々されてますが、実際に子供達の少年団や部活に対して、どれだけのフォローアップができているのかという疑問があります。

アスリートと創るオリンピックの町についても、慶應大学を誘致したことについてはすごい

なと思いましたけど、町が何をやってるのか分からない中でオリンピックと謳うのに非常に違和感があります。

スポーツ合宿の誘致とスポーツを支える人材の育成で、オリンピックの町創生事業としていますが、オリンピックの定義と創生の定義を教えてくださいませんか。

（政策推進課長）

オリンピックはオリンピックに出場された方で、オリンピックの方には現役や引退された方もいて、地元に戻られた際には小中学校での指導などもしていただいています。

慶應義塾大学の野球部の合宿もですが、やはりアスリートの姿を生で見ることで子供達が将来的にこういう選手になりたい、スポーツを続けたいなどの思いを抱いてもらいたいというのがこの事業の内容だと考えています。

（森委員）

おそらくそうだろうとは思いますが、講演やオリンピックから直接教えてもらうのは当然刺激にもなり、オリンピック選手になりたいという子供達も増えるとは思いますが。

ただ、オリンピックって言う以上、どこでもやってると思うんですよね。私の受け止めだと、オリンピックに出た方は幕別町の支援があって、オリンピック選手になったとは全く思っていないですよ。

スピードスケート選手であれば、帯広のクラブチームに通ったりだとか、その家庭と本人の努力でオリンピックに出場した方が多くて、幕別町がしていることは実は他の町村と大きく変わらないのに、色々提供しているような表現はすごく違和感があります。

また、幕別には帯広のオーバルや更別のふるさと館のような室内練習場がありません。私も昨年に80人くらいの中学生を集めて合宿をしましたが、雨が降った場合には屋外練習が出来ないので、町外の屋内練習場を仮押さえしたりする必要がありました。慶應大学についても、雨が降った場合には町外の施設で練習することになるのではないのでしょうか。

この場でこうしてほしいとは言いませんが、夢を持たせるような言葉を記載するのであれば、実情に合わせるような動きをするべきではと思います。

次に、基本目標3の子育て関係に触れてしまいましたが、以前に行政の方と話した時に、子育ての中に高校生とか大学生が含まれていないような印象を受けました。人口を増やす、出産をしてもらうからには、少なくとも高校生までを見据えた繋がりのあるものにするとか、目標に対しての進捗状況が分かるような形にしたいと思います。

出産費用だったり、不妊の方に対する助成は、当然大事なことです、産まれた後に忠類みたいに少年団もなく、毎回幕別の学校まで来なくてはいけない、そのような環境で住まなくてはいけないことへの軽減をお願いしたい。

町には口で言うだけで、実際やらないという形にはなってほしくないなと思います。答弁は要らないです。

（笹井会長）

ご意見ということでよろしいでしょうか。

他にございませんか。

（高道委員）

今の森委員の意見なんですけど、私も大いに賛同します。色々な会議に参加させていただいてますが、何度か提案しても、なかなか反映されていないような気がします。

私の場合、オリンピックといえば高木姉妹でして、2人が大きく盛り上げてくれたイメージがありますが、妹さんの方が日本体育大学と繋がりが強いですね。

町ともせっかく繋がりがあるのであれば、何か有効活用できないかというのは何回か提案させていただいているが、その計画があまり見えてこない。もう少し働きかけや動いてもらえたらと思うのですが、こういった考えをお持ちか教えてください。

（政策推進課長）

日体大との関係についてですが、連携事業を通して、例えば幕別町産品を使用したレシピの開発をお願いしたり、日体大のスポーツや栄養の教授の方に来ていただいて、講演をするというようなこともしています。

その中で、連携事業の中でこういったことができるのかというような話し合いを行いながら、事業の方を進めてるところです。

（高道委員）

講演については、私も参加させてもらったので承知しているのですが、地場産品を使用したレシピについては少し無理があるのではと思ってしまして、オリンピックとの結びつきがどうもイメージがつかないです。

食に関しては、他の市町村や十勝の他の町とあまり差がないのかなと思いますし、色々デー

タは出していただきましたが、それがオリンピックに実際に結びつくとは思えません。

そういう形の連携事業ではなく、慶應大学生を呼べるくらいですから、例えば現役の日本体育大学の学生を呼んで、小中学生や高校生との交流を行うなど、そういった働きかけをお願いしたいと思います。

考えておいていただければと思います。意見として述べさせていただきました。

（笹井会長）

他にございませんか。

続いて、基本目標３の結婚出産子育ての希望を考えるという部分に関してはいかがでしょうか。

（堀委員）

今春まで10年程小学校で特別支援教育の支援員をしていた堀と申します。

資料中の教育現場の整備というところに、子供の発達に応じた多様な教育の充実という言葉があるんですけども、この言葉を何とか入れてほしいというのを３年前の計画作成時においていました。

実は、幕別町が各学校へ特別支援教育支援員を派遣している人数は、私が知る限り十勝の他自治体や道内自治体と比較しても、非常に多く、手厚いと思います。

特別支援教育支援員の仕事は、色々なハンディや支援が必要な子供に寄り添って、日常生活動作の介助を行ったり、発達障害の児童生徒に学習活動上のサポートを行ったりします。

数字としては何も出てこないかもしれませんが、支援が必要な子供にとっては非常に大事な役割を担っていると思います。

これだけ手厚く各学校に特別支援教育支援員を配置しているのであれば、もっとアピールしたらいいのではと思います。実際に、幕別町では支援員が充実しているという情報が10年前くらいに広まって、実際に幕別に学区を変更される方もいました。

また、アピールをすることで、一度町外へ出た方も、子供が産まれて発達に不安があるような状況になった時に、そういえば幕別では特別支援教育が充実していたということで、家族で戻ってくるようなことも期待できるのではないかと思います。

次の計画を立てていく時には、特別支援教育というものをぜひ打ち出していただければと思います。

（企画総務部長）

幕別町の支援員の人数は確かに十勝管内では多い方かと認識しております。

ただ、その人数がいることが良いか悪いかは別でして、中身としてもアピールやPRっていうのが、難しい部分があります。

今後、ご意見いただいたものを、計画の中に入れ込むことができるのか検討させていただければと思います。

（笹井会長）

他に質問などある方はいませんか。

（堀川委員）

魅力ある高校づくり支援事業の中で、地域住民との交流やふるさと探求学習のための講師謝礼及び交通費の補助とありますが、数字が記載されていないので、想定されている予算額を教えてください。

もう一点、前にもお聞きしたかもしれませんが、学校運営協議会運営事業について、149万3千円と金額が載ってしまして、この金額はおそらく協議会の方々の旅費や報酬だと思いますが、その活動の原資となるものはどうなんだろうと思います。

コミュニティスクールや小中一貫、あるいは地学協働、私も札内東学園で結構動いてはいるんですが、かなり微小な金額で、大きな効果を求めているような形になっているように感じます。予算当てについて、また再考していただけないかと思ひまして、発言をさせていただきました。

（政策推進課長）

1点目のご質問の地域住民との交流やふるさと探究学習のための予算ですけども、ごめんなさい。今、資料を持ち合わせていないので後ほど報告させていただきます。

2点目の学校運営協議会運営事業の149万3千円でございますけども、堀川委員のご指摘の通り、会議の費用弁償などそういった部分だと思うんですけども、教育委員会が積み上げてきた予算の内容というのもありますので、その内容等も十分確認して、委員がおっしゃられたようにすぐ予算が拡充できるとかは、ここでは申し上げられませんが、そういったご意見があったということを伝えておきたいと思います。

（笹井会長）

他にございませんか。

無ければ、次の基本目標４の安全・安心で快適な暮らしができるまちをつくるについて、質問などある方いますか。

（宮田委員）

質問と意見を１点ずつさせていただきます。

まず、医療・介護多職種連携システム事業についてですが、何かが進んでいるような実感が全くないんですが、進捗状況など分かれば教えていただければと思います。

次に意見になりますが、認知症総合支援事業の中の認知症カフェなんですけども、全国的に見ても、停滞していて、もう過去のものになりつつあるように思います。

認知症カフェに特化するのではなく、認知症の地域交流支援事業のような形で、もう少し幅を広げて、色々な活動に対して助成をする方向の方が、地域の認知症対策には良いのかなと思っているので、意見として述べさせていただきます。

（政策推進課長）

まず、１点目の医療・介護多職種連携システム事業ですけども、実際に今、タブレットを用いたシステムを使用しながら、登録いただいた医療機関を利用してる患者さんが在宅に帰られて、どんな介護が必要か、医療現場でどういった処置をされてるのか、そういった情報をやりとりするシステムの方も使用しながら進めているというのが現状でございます。

２点目の認知症カフェについては、２つの団体がありましたが、コロナ禍でどうしてもできないということもあって、実施件数が０件というようなことが何年か続いていました。

現在、コロナ禍が明けて、どうするかというようなことは、昨年度末から話は進めていますので、宮田委員がおっしゃられたような、これからは認知症が５人に１人が関係してくるというようなことも言われてる時代ですから、認知症の方と介護する方だけではなくということは、担当課でも考えてると思いますので、今のご意見については担当課に確実に伝えておきたいと思っています。

（笹井会長）

宮田委員よろしいですか。

他にございませんでしょうか。それでは、全体を通して何かございますか。無いようですの

で、議案についてはこれで終了とさせていただきます。

続きまして、その他について事務局から事務局の方から説明をお願いします。

（政策推進課副主幹）

その他についてですが、委員の皆様には審議していただいています「第2期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましては、令和2年4月から令和7年3月までの5年間のもので、今年度いっぱい期間が終わります。

つきましては、今年度中に次期の総合戦略を策定することになります。次期の総合戦略については、国が策定した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に基づきまして、新たにデジタルの力を活用し地方の社会課題解決を勘案した総合戦略の策定を考えているところです。

それでは資料5の「令和6年度のスケジュールについて」をご覧ください。次期の総合戦略を策定に向けて、次のスケジュールで進めていく予定です。審議会については、今後5回の開催を予定しています。

次は第2回の審議会として、7月2日に開催を予定していますが、町からの諮問を受け、次期策定の方針を示しまして、概要を説明します。（事務局注：第2回の審議会は8月に延期しております。）

10月に第3回、11月に第4回、12月の第5回の審議会で（案）を決定しまして、その後議会へ報告を経て、1月から1か月間パブリックコメントを実施します。

2月の第6回の審議会でパブリックコメントの意見を反映し成案、答申を予定しております。

資料3の委員名簿の右上に記載がありますが、委員の皆様におかれましては、任期が今月の29日までであります。

次の任期が6月30日からの3年間で、公募による委員の6人については今年の3月に決定していますが、ほかの委員については、関係する団体様に委員の推薦の依頼をしまして委嘱いたします。

次の任期の委員は、次期の総合戦略の「デジタルの力を活用した総合戦略」を考慮しつつ、まだ第2期については今年度いっぱい残っていますので、委員さんの顔ぶれが大きく変わらないようにと考えているところです。

その他としての説明は以上でございます。

（笹井会長）

その他の説明につきまして何かご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは一応予定されておりました議案につきましては、以上でございますが、最後に皆様の方から何かございましたら、発言をお願いします。

それでは、無いようですので、以上で審議会の方を終了させていただきます。不慣れな進行で長時間に渡ってしまいまして申し訳ございませんでした。

本日はどうもご苦勞様でした。